

2021年度 ドルトン東京学園中等部【算数】大問4

毎年日本には多くの台風がやってきます。その一部が日本に上陸あるいは通過し、大きな被害をもたらすことがあります。上陸とは台風が中心が北海道・本州・四国・九州の海岸に達した場合を言い、通過とは台風が中心が、小さい島や小さい半島を横切って、短時間で再び海上に出る場合を言います。この問題では、台風が上陸した場合も通過した場合も「日本に来た」と表すことにします。

次の表1は2017年から2019年の間に発生し、日本に来たすべての台風について、そのときの日付、階級、中心気圧、最大風速についてまとめたものです。なお、階級は気象庁がある基準にしたがって定めたものです。

表1

年	月	日	台風名	階級	中心気圧 (hPa)	最大風速 (ノット)
2017	7	3	ナマドル	4	985	55
2017	8	5	ノル	4	970	60
2017	9	17	タリム	4	975	55
2017	10	22	ラン	5	950	80
2017	10	28	サオラ	4	975	60
2018	7	20	アンピル	4	985	50
2018	7	28	ジョンダリ	5	970	65
2018	8	14	リーピ	3	998	40
2018	8	23	シマロン	5	970	75
2018	9	4	ジェビ	5	950	85
2018	9	30	トラミ	5	960	80
2019	7	26	ナリ	3	1000	35
2019	8	5	フランシスコ	5	970	70
2019	8	15	クローサ	4	975	50
2019	9	8	ファクサイ	5	960	80
2019	10	12	ハジビス	5	955	80

気象庁「過去の台風資料」より作成（ただし、同じ台風が日本に来た場合は最初のもので表に載っています。hPaは気圧の高さを、ノットは風速の速さを表す単位です。）

(1)

9月に日本へ来た台風の中心気圧の平均値を答えなさい。

(2)

最大風速の小さい順に並べたとき、11番目である台風名を答えなさい。



(3)

表1から読み取れることとして適当なものを2つ答えなさい。

ア：気象庁は最大風速が70ノット以上の台風を階級が5であると定めている。

イ：2017年から2019年の間に、12月に台風が日本へ来たことはない。

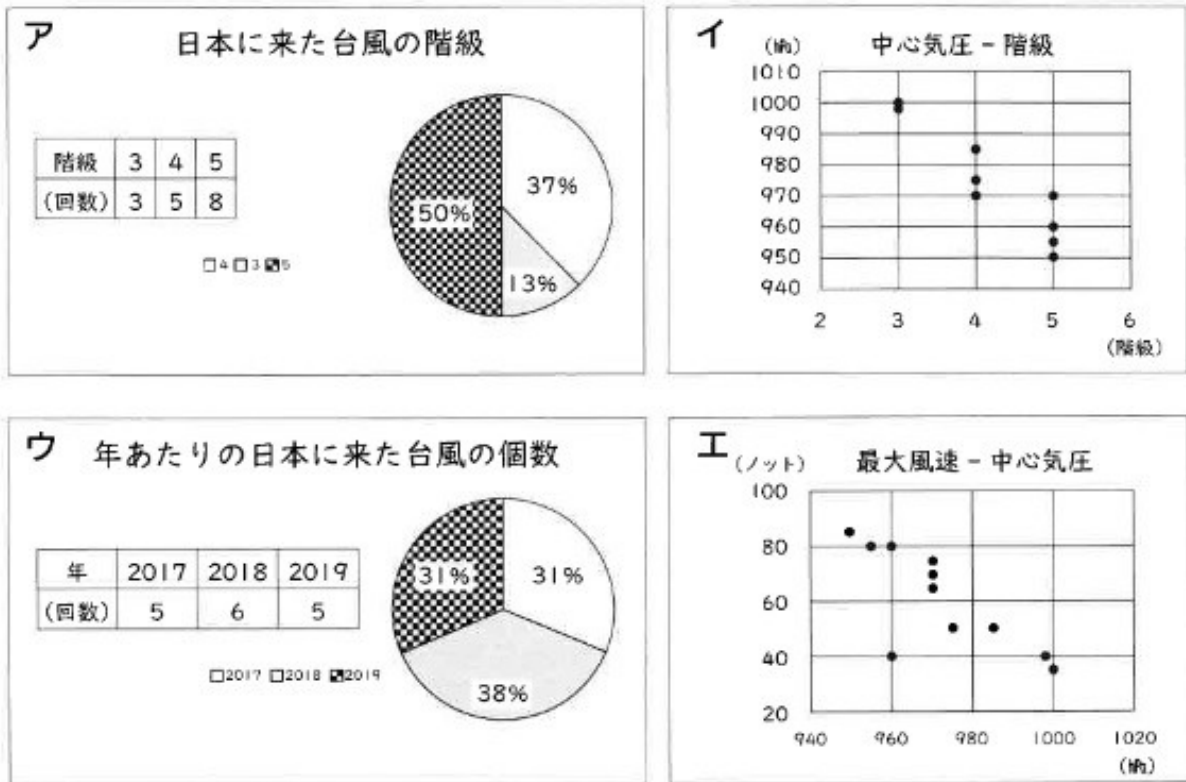
ウ：2017年から2019年の間に日本へ来た台風について、

7月の最大風速の平均値と10月の最大風速の平均値を比べると、10月の方が大きい。

エ：最大風速が速いほど、日本各地に大きな被害がでる。

(4)

表1をまとめたグラフとして正しいものを、すべて選びなさい。



(5)

次の表2は、表1とは違う年に日本に来た台風の一部をまとめたものです。

この3つの台風のうち、階級5であるものは1つだけです。どの台風か名前を答えなさい。

また、階級が5である台風はどのような条件を満たすと考えられますか。説明しなさい。

表2

年	月	日	台風名	中心気圧 (hPa)	最大風速 (ノット)
2002	6	9	ノグリ	975	60
2004	7	31	ナムセウム	980	65
2004	8	19	メギ	980	60

気象庁「過去の台風資料」より作成

